

アオバセセリは昆虫少年時代を過ごした郷里の高知市五台山で、ヤマビワを食樹とするスミナガシと同じ場所で発生していて、スミナガシの幼虫探索の際に、葉っぱを巻いたなかにひそむ派手な色調の幼虫を観察したことがある。高知市ではアオバセセリの成虫は、ネギボウズやグミの白い花に吸蜜飛来する個体を目にできたが、次々と場所を変える吸蜜飛翔のために長い間まともな撮影記録が撮れずにいた。

May 8, 2016：兵庫県宍粟市

ミヤマカラスアゲハが観察できる兵庫県中部山岳地帯の溪谷を訪問。溪流沿いにミツバウツギの白い花が咲き誇るところに、頻度高く蜜を求めてやってくるミヤマカラスアゲハやカラスアゲハなどの大きなチョウに混じって、小さなチョウがすばしっこく飛び交う。それを目で追うと、時折後翅端のオレンジ色がはっきりと認識でき、アオバセセリだとわかる。その吸蜜行動は忙しいのひとことで、次から次へと場所を変え、しかもその転飛のスピードがのどかに舞うように飛



ぶアゲハ類と違ってあまりに速い。そのアオバセセリの飛翔をビデオカメラで追いかけて、なんとか記録できた画像はいずれも似たような構図ばかり。

May 22, 2017：兵庫県宍粟市

2016年の5月に訪れた溪谷沿いはミツバウツギがまだ開花していなく、アゲハ類もアオバセセリもまったく姿を見せない。仕方なく、さらに山奥のタニウツギが咲く溪谷へと足をのぼすと、オナガアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハが次々と蜜を求めてやってくる格好のポイントがあり、時折ミヤマチャバネセセリも現れるがタニウツギでの吸蜜時間はきわめて短い。そんななか、ようやく姿をみせたアオバセセリだったが、このチョウはミヤマチャバネセセリよりもさらに滞在時間が短く、ビデオ撮影がかろうじて間に合うほどのタイミングで飛び去ってしまう。アオバセセリはやはりタニウツギよりは、ミツバウツギのような白い花での吸蜜がよく似合うチョウだ。



須崎市の大崎さんが送ってくださったアオバセセリの蛹が、7月19日に少しだけ腹節部に広がりを見せ、経過観察を続けていたが、今朝7時半に見た時点で蛹が黒くなって腹節部の広がり



も幅広く変化している。急ぎビデオ撮影の準備を整えて様子を見る。9時15分に蛹がピクリと動き、5分に1回でいどのわずかな動きをみせたあと、9時半を過ぎて大きく体を曲げるしぐさをみせる。9時34分、蛹の頭部分に亀裂が入り、50秒後に頭から上半身にかけて蛹から抜け出てくる。完全に脱出したあと、蛹殻につかまる気配はなく、ヤマビワの葉っぱからも離れて歩い



て移動する。いったん静止するのでここで羽を伸ばすのかと思えば再び移動。そこで手指へと移ってもらって緑が多いスゲの葉へと移すと、体重が重くて落ちそうになり、結局、そばにあったスプレーの先端部に落ち着く。この段階できれいな翅表も記録できたことから、撮影しやすいチ



ガヤの葉に移ってもらって伸び切った翅の鱗粉の輝きをしっかりと記録する。やはり羽化した直後のチョウの美しさは格別で、アオバセセリをここまで美しい状態で観察したことはない。まさに目の覚めるような美しさといえる。



アオバセセリの羽化シーンを目にできたのは初めてで、野外でも羽化後には翅を伸ばす足場を確保するために相当の距離を移動する習性があると思えた。貴重な蛹を提供して下さった大崎さんに深く感謝したい。

May 5, 2022 西播磨の山岳部に遠征

ミツバウツギで吸蜜するアオバセセリの光景と、リンゴ畑で花蜜を求めるウスバシロチョウが観察できることを期待して車で約2時間(75km)の山岳地帯へ。溪流沿いを奥へと進んだ低い位置に咲くミツバウツギにアオバセセリの姿はない。遅い昼食タイムをとり、再びチョウタイム。奥の林へと入る手前の溪流沿いには大きなグミの木があって花は今が盛りという感じに咲いて芳香も漂っている。奥の溪流沿いへと行ってみるがスジグロシロチョウがあちこちと飛び回って、結局は吸蜜することなく溪流沿いを飛んで行ってしまう。アオバセセリとの出会いは期待外れかと戻る途中、溪流からは離れた山側のミツバウツギにそれらしき影がみえ、次々と場所を変えながら蜜を求めるアオバセセリを確認。枝葉の陰ではあるが、きれいなオレンジ色までみえる吸蜜シーンの記録ができて一安心。



グミの木へと戻るとなんとミヤマカラスアゲハの比較的新鮮な♂が2頭やってきている。少しずつ場所を変えていく個体を追って、三脚なしのずっと上向きのままの撮影で首が疲れるが、ときおり翅表の美しい鱗粉色が輝いて見える。尾状突起が欠けた個体も現れるが撮影対象にはならない。やがてアオバセセリが低い位置の花にやってくる。あいかわらず動きが速くていい位置にやってこないが、こちらにも態勢を低くして撮影タイミングを得る。

